長岡技術科学大学
Nagaoka University of Technology

平成３１年２月定例記者会見

日　時：平成３１年２月４日（月）１３：３０～
場　所：本学事務局３階第１会議室
内　容：

１．鳥獣被害対策を支援するベンチャー企業「（株）うぃるこ」の設立について

（生物機能工学専攻　准教授　山本　麻希）

２．新学術領域研究「重力波物理学・天文学：創世記」主催
市民講演会　「重力波物理学・天文学の展開
～ブラックホールをめぐる宇宙の謎～」の開催
（情報・経営システム工学専攻　准教授　髙橋　弘毅）

３．「えちご想発 xTech 学生 ICT ビジネスアイデアコンテスト 2018 in 長岡」において長岡造形大学・長岡技術科学大学合同「SPAxIoT」チームがグランプリを受賞

（長岡造形大学 プロダクトデザイン学科 3 年 森 裕美子、
長岡技術科学大学
情報・経営システム工学課程３年　佐藤　恵介、長谷川　結衣、片岡 翔太郎、
情報・経営システム工学課程４年　星野　柾）

４．卓越大学院プログラム　キックオフシンポジウムの開催について

（技術科学イノベーション専攻　教授　中山　忠親）

以　　上

報道資料

平成３１年２月４日

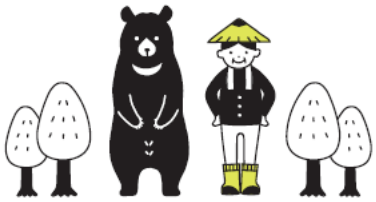
報道機関各位

長岡技術科学大学　生物機能工学専攻
准教授　山本麻希

野生動物対策支援を行う大学発のベンチャー企業の設立について

１．大学発ソーシャルベンチャー企業の設立

獣害対策を支援する業務を拡大するため、平成 30 年 5 月 24 日に大学発のベンチャー企業として㈱うぃるこを設立、登記した。また、同企業は、H30 年度、NICO のベンチャー企業創出事業に申請し、助成を獲得した。大学で培った野生鳥獣対策に必要なノウハウを駆使し、ソーシャルベンチャー企業として野生動物と人間の共存をミッションとして掲げ活動を行っている。代表取締役社長は、山本麻希が務める。



2.㈱うぃるこの事業概要

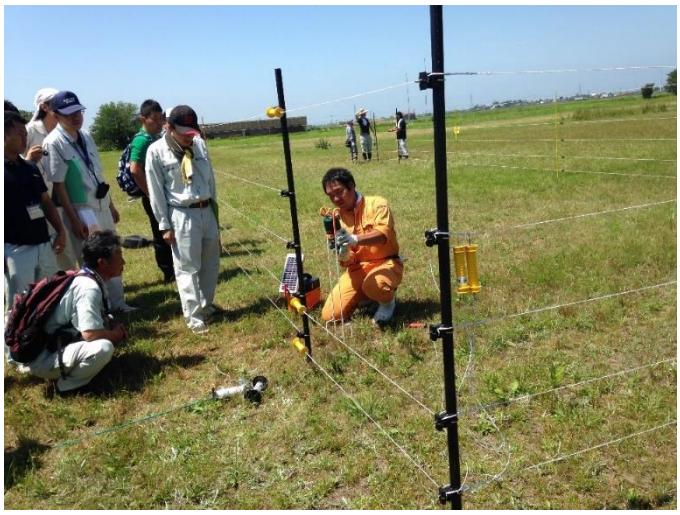
私たちのミッションである「野生動物と人間の共存」を目指して、科学的アプローチによる鳥獣害防除のコンサルティングを行う。主な事業内容は下記の通り。

・鳥獣被害対策研修事業
→鳥獣の生態、各動物の正しい被害対策、電気柵の設置方法、罠を用いた捕獲技術に関する講演会、実習を含む研修会等を行う。

・集落環境診断事業
→住民ぐるみの獣害対策として、集落単位での被害状況の把握、被害の原因の分析、対策の立案を行う。

・柵機能診断事業
→電気柵や防除柵が正しく設置されているか、その維持管理における問題点の診断を行う。

・野生動物生態調査・生息数推定分析
→野生動物の行動調査、生息数調査、胃内容物分析、ベイズ推定を用いた個体数推定など様々な動物の生態調査やその分析を行う。



・野生動物被害把握業務
→野生動物の被害把握のためのアンケート調査、カワウの食害推定等を行う。

・獣害業界のオンラインリクルートマッチング事業
→全国にある獣害対策団体、関連企業、行政と学生を繋げる Hub を構築し、リクルートマッチングを行う。

報道資料

平成３１年２月４日

報道機関各位

新学術領域研究「重力波物理学・天文学：創世記」主催
市民講演会 「重力波物理学・天文学の展開 ～ブラックホールをめぐる宇宙の謎～」の開催

長岡技術科学大学
情報・経営システム工学専攻 准教授 高橋弘毅

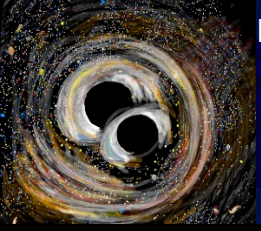
１．講演会開催の背景

アインシュタインは、重力の正体は時空（時間と空間を合わせた 4 次元空間）の歪み（ゆがみ）として説明する一般相対性理論を提案しました。一般相対性理論は、ブラックホールの存在や宇宙の膨張を予言し、これまでのさまざまな観測結果から、その予言が正しいことが示されてきました。 また、一般相対性理論は時空の「さざ波」である重力波の存在も予言しています。重力波は、約 100 年の間直接観測されず「アインシュタインからの最後の宿題」と言われていましたが、2015 年 9 月 14 日に米国 LIGO プロジェクトが重力波を観測したと 2016 年 2 月 12 日深夜（日本時間）に発表をしました。この発表を受け 2016 年（平成 28 年）3 月に「一般相対性理論誕生 100 年記念市民講演会」【長岡会場】において、高橋が世界初の重力波直接観測について解説し今後の重力波研究の展望をお伝えしました（参考 URL:http://www.nagaokaut.ac.jp/j/news/e_160209.html）。

その後、重力波の研究は劇的に発展しています。2017 年度（平成 29 年度）に、文部科学省 科学研究費助成事業 新学術領域研究「重力波物理学・天文学：創世記」代表者 田中貴浩 （京都大学理学研究科・教授）が採択され、重力波物理学・天文学の研究を進めています。その最新の研究成果をお伝えするため本講演会は、2016 年（平成 28 年）3 月の講演会の続編として位置づけ、第一線で活躍する若手研究者が「重力波とは何か」から解説を始め、ブラックホールに関連した話題を中心に、重力波でさぐる様々な宇宙の謎を語ります。さらに、新学術領域研究「重力波物理学・天文学：創世記」のメンバーでもあり、日本の重力波観測プロジェクト KAGRA のメンバーでもある高橋より、大型低温重力波望遠鏡 KAGRA（岐阜県飛騨市神岡町、責任者 東京大学宇宙線研究所所長 梶田隆章）の最新状況の報告や今後の国際共同観測の予定などもお話しする予定です。

２．開催概要

日時：2019 年（平成 31 年）2 月 17 日（日） 14 時 開始 （開場 13 時 30 分）（17 時 終了予定）
会場：まちなかキャンパス長岡（長岡市） 3 階 302 会議室
主催：新学術領域研究「重力波物理学・天文学:創世記」 代表者 田中貴浩（京都大学理学研究科・教授）
後援：長岡技術科学大学
講演者とタイトル： 内潟那美(新潟大学自然科学系・研究員)
「ブラックホールからのこだま？！～重力波で探るブラックホール～」
細川隆史(京都大学理学研究科・准教授)
「重力波で探る宇宙最初の星とブラックホール」
参加について：無料。事前参加申込が望ましい。参加申し込みは、電話(0258-47-9847) / FAX(0258-47-9357)/ メール(gw_lecture@oberon.nagaokaut.ac.jp)にて受付（詳細：別紙資料のポスターに記載）。
講演会 HP：https://gw-genesis.scphys.kyoto-u.ac.jp/ilias/goto_root_lm_1454.html
本学 HP：http://www.nagaokaut.ac.jp/j/news/e_190217.html

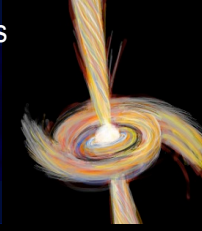


Innovative Area (FY2017-2021) Gravitational Wave Physics and Astronomy : Genesis

新学術領域研究

重力波物理学･天文学：創世記

https://gw-genesis.scphys.kyoto-u.ac.jp



写真提供：NASA

市民講演会

重力波物理学・天文学の展開

～ブラックホールをめぐる宇宙の謎～

平成28年3月に『一般相対性理論誕生百年記念市民講演会』【長岡会場】において，当時最新のニュースであった世界初の重力波直接観測について解説し，今後の重力波研究の展望をお伝えしました．その後，重力波研究は劇的に発展しています．本講演会は，前回講演の続編として，第一線で活躍する若手研究者が「重力波とは何か」から解説を始め，ブラックホールに関連した話題を中心に重力波でさぐる様々な宇宙の謎を語ります．

細川隆史氏
（京都大学）

内潟那美氏
（新潟大学）

- 日時：平成31年2月17日（日）14：00より（開場：13：30，17時終了予定）
- 会場：まちなかキャンパス長岡　3F　302会議室
- 主催：新学術領域研究「重力波物理学・天文学：創世記」
  後援：長岡技術科学大学
- 参加無料．参加申し込みは電話(0258-47-9847，平日9:00-16:30）/ FAX（0258-47-9357）/メール(gw_lecture@oberon.nagaokaut.ac.jp，件名を”講演会申し込み”としてください）に，ご芳名・参加希望人数・参加者の年齢層・お住いの地域とともにご連絡ください．参加希望者多数の場合は登録者を優先します

講　演　内　容

ブラックホールからのこだま？！～重力波で探るブラックホール~

内潟那美（新潟大学・自然科学系・研究員）

1915年，アインシュタインは重力による時空の歪み具合を記述する方程式，アインシュタイン方程式を発表しました．1916年にはアインシュタイン方程式から重力による時空の歪みが波（重力波）として宇宙全体に伝搬する可能性も予言されました．

それから約100年後の2015年9月，アメリカの重力波検出器により史上初めて重力波が観測され，現在までにアメリカやヨーロッパの重力波検出器でブラックホールや中性子星による11個の重力波イベントの観測が発表されています．

本講演では一般の方に向けて重力波や重力波源の一つであるブラックホールについてわかりやすく解説し，また最近の重力波研究で注目されているテーマの一つである「ブラックホールからのこだま（エコー）」について紹介します．

重力波で探る宇宙最初の星とブラックホール

細川隆史（京都大学・理学研究科・准教授）

最近初めて直接観測された重力波によって，私たちは宇宙をくわしく見る新しい“窓”を手に入れました．これからの数年間，これまで他の手段では分からなかった宇宙の秘密が，次々と明らかになっていくと予想されています．

宇宙で最初にできた星と，その成れの果てのブラックホールは138億年の宇宙の歴史のどこか最初の頃に誕生したはずです．しかし，その様子がどんな風だったのか，いつ，どこで，どんな風に生まれたのか，大きな謎として残っています．こうした謎にも，これから進む重力波の観測によって初めて迫れる可能性があります．

この講演では，重力波観測が秘めるこうした大きな可能性の一つとして，宇宙最初の星とブラックホールを特に取り上げて今後の展望を紹介したいと思います．

報道資料

平成３１年２月４日

報道機関各位

「えちご想発 xTech 学生 ICT ビジネスアイデアコンテスト 2018 in 長岡」において
長岡造形大学・長岡技術科学大学合同「SPAxIoT」チームがグランプリを受賞

長岡造形大学 プロダクトデザイン学科 3 年 森 裕美子
長岡技術科学大学 情報・経営システム工学課程 3 年 佐藤 恵介、長谷川 結衣、片岡 翔太郎
同 4 年 星野 柾

1. 受賞の概要

「えちご想発 xTech 学生 ICT ビジネスアイデアコンテスト 2018 in 長岡」は、ICT の未来を担う人材の育成を支援し、地域に新たな価値を創造し、様々な課題の解決に貢献するようなアイデアと技術・サービスを競う場として、NPO にいがた地域情報化推進協議会［ICT えちご応援隊］および信越情報通信懇談会が主催するアイデアコンテストであり、今年で 3 回目の開催となります。32 件の応募の中から書類審査、一次審査を経て 12 月 2 日に最終審査発表会（発表 7 件）が開催されました。

長岡造形大学・長岡技術科学大学の学生合同チーム「SPAxIoT」は、このコンテストに応募して、最終審査発表会で発表し、優秀賞「地域づくり部門賞」（長岡市長賞）とグランプリ（総務省信越総合通信局長賞）（最優秀賞に相当）を受賞しました。

2. 応募の経緯

長岡技術科学大学 湯川高志教授と長岡造形大学 土田知也教授は、それぞれが受け持つ科目において IoT を題材として学生に主体的に考えさせるアクティブラーニング形式の授業を行なっています。その授業のうち何回かは、双方の学生が集ってアイデアを発表し合う合同授業としています。この合同授業での発表をきっかけとして、関心のある学生がチームを作り、授業が終了した後も自主的に議論を重ねてアイデアをブラッシュアップし、当該のコンテストに応募したものです。

長岡造形大学はデザインを学ぶ大学であり、学生はサービスの構想やデバイスのデザインを得意としています。長岡技術科学大学は技術を学ぶ大学であり、学生はサービスやデバイスを実現することを得意としています。このように得意分野の異なる両大学の学生が協調することで、着眼点としておもしろく、かつ、完成度も高い IoT デバイスとサービスを提案できたことが、受賞につながったものと考えています。

3. 応募作品の概要

温泉宿や温浴施設で入浴中にロッカーの鍵を手首等につけておくためのベルトに、センサー、押しボタン、通信機能を内蔵させるとともに、風呂場の各所にビーコンを置いて、ベルトの位置とセンサーの状態をサーバで収集するシステムです。利用者にとっては、家族が男湯、女湯に別れて入っている場合でも、「もうすぐ出る」といった簡単な信号をやりとりすることが可能となり、施設をより便利に利用できます。施設は、利用者の動向を分析すること（どの湯船に人気があるか等）ができ、より魅力的な施設やサービスへと改善することが可能となります。

平成３０年１１月２９日

報道機関各位

長岡市総務部情報システム管理課長

学生の新しいアイデアがキラリと光る☆彡
ICTビジネスアイデアコンテスト開催！

長岡市

このたび、「ICT ビジネスアイデアコンテスト 2018 in 長岡（えちご想発xTech）」が開催されます※。大学生や専門学校生が、スマホアプリなど ICT（情報通信技術）を利用した地域や生活に役立つアイデアを競い合うものです。

つきましては、下記のとおり概要をお知らせしますので、ぜひ取材くださるようお願いします。

ICTビジネスアイデアコンテスト 2018 in 長岡
（えちご想発xTech）

１　日　　時　　１２月２日（日）
午後１時３０分～５時　プレゼンテーション・審査会
午後５時３０分～７時　表彰式・交流会

２　会　　場　　アオーレ長岡西棟３階　市民交流ホールＢ・Ｃ
（長岡市大手通１丁目４－１０）

３　内　　容　　学生が考えた「ICT を地域に役立てるアイデア」をデモンストレーションを交えて発表します（詳細は別紙のとおり）。

４　参加団体　　県内の大学、専門学校に通う学生７チーム（応募総数３２件）
（長岡市内の学校からも参加者あり。裏面参照。）

５　表　　彰　　優秀作品には、総務省信越総合通信局長賞、長岡市長賞、ながおか・若者・しごと機構賞をはじめとする各賞を授与します。
表彰は、交流会で行います。

６　開催団体
・主催：NPO 法人にいがた地域情報化推進協議会、信越情報通信懇談会
・共催：長岡市、ながおか・若者・しごと機構
・後援：総務省信越総合通信局、長岡商工会議所

※３大学１高専の好立地から、長岡市内で開催されるもの。今回は３回目の開催。

問い合わせ：総務部情報システム管理課
TEL０２５８－３９－２２０５

No	学校名	チーム名	タイトル
1	新潟大学大学院	GuNii	お出かけコース投稿型 C to C ｻｰﾋﾞｽ「Connect」
2	新潟大学	チーム AOKI	ばあちゃるかあちゃん
3	新潟工科大学	NIICT	もっと国道に親しみを！ 国道スタンプラリー
4	新潟コンピュータ専門学校	長岡大好き boys	My fireworks in 長岡
5	新潟コンピュータ専門学校	Raising Children	VR 子育て
6	新潟大学	もんぶらん 3.0	Smart Coacher （スマート・コーチャー）
7	長岡造形大学、 長岡技術科学大学	SPA×IoT	ON 泉～AI の力で事業再生～

※表示は受付順です。発表順は当日決定する予定です。

アイでつながる越後の絆
ICT
えちご応援隊

えちご想発xTech

ICTビジネスアイデアコンテスト 2018

in 長岡

テーマ1
Creating a future with ICT
（ICTで拓く未来）

テーマ2
Challenge to create new value
（新たな価値を生み出す挑戦）

●応募受付期間：2018年6月18日（月）～2018年7月31日（火）
●最終審査発表会：2018年12月2日（日）13:30～17:00
●発表会会場：アオーレ長岡 市民交流ホールB・C（新潟県長岡市大手通1丁目4-10）

現代のビジネスや生活にはICTツールを利用した様々なサービス・アプリが活躍しています。IoTやAI、ビッグデータなどICT分野における新たな世界的潮流の中、地域経済の活性化、地域が抱える課題解決の手法を大きく変革する可能性を有しており、その取り組みを推進する必要があります。
ICTえちご応援隊と信越情報通信懇談会では、ICTの未来を担う人材の育成を支援し、地域に新たな価値を創造し、様々な課題の解決に貢献するようなアイデアと技術・サービスを競う場として「えちご想発xTech」を開催します。

書類審査・一次審査

作品の独創性が重点的に評価されます。また、有用性・実現可能性も重視されます。

最終審査発表会

最終審査発表会では独創性・有用性・技術力・プレゼンテーション能力・実現可能性などを加味して各賞を決定します。

起業家甲子園への挑戦！

本コンテストは、国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）が毎年3月に東京にて開催している「起業家甲子園」と連携しており、優秀者は「起業家甲子園」への挑戦権を獲得できる可能性があります。

「起業家甲子園」とは?
全国から選抜された学生が、ICTを用いて自ら開発した商品・サービスをICTメンタープラットフォームメンターとともに更に磨きをかけ、アントレプレナーシップ魂を込めたプレゼンテーションにより競い合う、ビジネスコンテスト全国大会です。

主催 NPOにいがた地域情報化推進協議会［ICTえちご応援隊］／信越情報通信懇談会　共催 長岡市／ながおか・若者・しごと機構／北越銀行
後援 総務省信越総合通信局／長岡商工会議所

開催概要

【応募受付期間】
2018年6月18日（月）から 2018年7月31日（火）
- エントリーシート締切：2018年7月31日（火）必着
- ビジネスプランシート締切：2018年10月19日（金）必着

【応募作品提出】
2018年10月1日（月）から 2018年10月19日（金）

【一次審査】
2018年10月下旬 から 2018年11月上旬

【最終審査発表会】
2018年12月2日（日）13:30 ～ 17:00

【発表会会場】
アオーレ長岡 市民交流ホールB・C（新潟県長岡市大手通1丁目4-10）

【応募資格】
応募の時点で、新潟県の大学及び高等専門学校並びに高等学校、専修学校等に在籍する方からなるチーム（グループまたは個人）

【表彰】
優秀作品には、賞状・副賞を授与、奨励賞には、賞状を授与します。
- グランプリ　（総務省信越総合通信局長賞）
- 優秀賞　「地域づくり部門賞」（長岡市長賞）
- 優秀賞　「地方創生部門賞」（ながおか・若者・しごと機構賞）
- 優秀賞　「ビジネス部門賞」（北越銀行賞）
- 優秀賞　「Tech部門賞」（信越情報通信懇談会長賞）
- 奨励賞　（にいがた地域情報化推進協議会長賞）

【「起業家甲子園」への挑戦】
本コンテストは、国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）が毎年3月に東京にて開催している「起業家甲子園」と連携しており、優秀者は「起業家甲子園」への挑戦権を獲得できる可能性があります。
http://www.nict.go.jp/venture/

【応募条件】
- 課題テーマは、「Creating a future with ICT（ICTで拓く未来）」「Challenge to create new value（新たな価値を生み出す挑戦）」。
- ICTを用いて自ら開発するアプリ・サービスのアイデアと作品の提出。
  作品は最終審査発表会までに用意してください。（作品は完成品である必要はありません）
- アイデアのみでも可としますが、アプリ・サービスの作品があることが望ましい。
- 1チームにつき1作品を応募してください。
- 申し込み後のビジネスプランの変更、チームメンバー・人数の変更を認めます。
- ビジネスプランシートの提出締切後の作品内容の変更は認めません。
- 指導教諭は、複数のチームを指導することができます。
- 複数校（複数キャンパスを含む）の学生による混成チームも認めます。
- 同一学生が複数のチームに属することはできません。（学生の重複は禁止）
- 応募作品の他コンテスト等への応募は認めます。但し、発表会以前の応募実績は申告してください。

【最終審査発表会参加チームの選考】
最終審査発表会参加チームは、書類審査および一次審査により、8チーム程度選考する予定です。
- 書類審査および一次審査での選考は主催者が審査し、結果は電子メールにて連絡を行います。
- 書類選考は提出されたビジネスプランシートと作品説明資料によって行いますので、作品説明資料は簡潔に判り易くまとめてください。
- 書類選考を通過したチームは一次審査（10月下旬から11月上旬に長岡市内・新潟市内で実施予定）で10～15分程度の作品説明プレゼンテーションを実施していただきます。
- 書類審査ならびに一次審査では、作品の独創性が重点的に評価されます。また、有用性・実現可能性も重視されます。

【最終審査発表会】
学生からアイデアと作品を発表していただきます。
- 実例（作品あり）での説明がある場合、10～15分で発表・デモを実施していただきます。
- アイデアのみの場合、10分程度で発表していただきます。
- 発表会の参加チーム数により発表時間の調整を行う場合があります。

【最終審査発表会での各賞選考】
プレゼンテーションとデモンストレーションによって総合的に審査します。
- 審査は作品の独創性・有用性・技術力・プレゼンテーション能力・実現可能性などを加味して、審査員の投票によって各賞を決定します。
- 審査員は主催者団体等から選任されます。

【留意事項】
- 応募作品及び発表資料の著作権は、発表者（応募者）に帰属されます。
- 第三者の著作権等の知的所有権を侵害しないよう十分に留意してください。万が一問題が発生した場合は応募者の責任で対応してください。
- 提出書類は返却いたしません。審査の内容については公表いたしません。
- 最終審査発表会当日は写真撮影が入ります。撮影した写真・動画はホームページ等で公開される場合があります。

【応募方法】
「エントリーシート」を2018年7月31日（火）までに事務局宛に電子メールにて提出してください。
※提出後、事務局から受領の返信メールが返信されますので、返信が届かない場合は事務局までお問い合わせください。
※エントリーしたチームは、「ビジネスプランシート」と「添付資料」（自由形式）を2018年10月19日（金）までに事務局宛に電子メールにて提出してください。
必要書類ダウンロードURL：http://www.ict-echigo.jp/spapp/

参加申し込み・問い合わせ
「えちご想発xTech 事務局」あて
E-mail : contest@ict-echigo.jp

コンテスト・各賞決定までの流れ

～7月31日（火）
応募（参加登録）
- エントリーシート（指定様式）

▶

～10月19日（金）
ビジネスプラン提出
- ビジネスプランシート（指定様式）
- 作品説明資料（様式自由）

▶

書類審査
- 提出書類の内容をもとに主催者が選考

▶

～11月上旬
一次審査（新潟・長岡）
- 応募者による作品説明プレゼンテーション
- 主催者が選考

▶

12月2日（日）
最終審査発表会（長岡）
- 応募者によるプレゼンテーションとデモンストレーション
- 審査員の投票により各賞決定

報道資料

卓越大学院プログラムキックオフシンポジウム

日　時：　平成３１年３月１５日（金）　１５：３０～１７：００

場　所：　学士会館　（千代田区神田錦町３－２８）

参加者：　企業、教育関係者　約１００名

卓越大学院プログラムキックオフシンポジウム
SDGs を実現する人材を育てる卓越大学院　～ 日本が再び輝くために ～

◎プログラム

オープニング　長岡技術科学大学の歴史紹介 MOVIE　NUT ヘリテージ　上映

１．　学長挨拶

２．　来賓挨拶（文科省）

３．　本学卓越大学院プログラム概要説明（鎌土理事・副学長）

４．　SDGs ゴール９世界ハブ大学としての使命（三上理事・副学長）

５．　講演１　　国際連合工業開発機関 東京投資・技術移転促進事務所
所長　　安　永　裕　幸　　氏

講演２　　株式会社ライクアートリソーセス
代表取締役社長　　田　尻　史　明　　氏

講演３　　グロービス経営大学院
シニア・ファカルティ・ディレクター　　金　子　浩　明　　氏

６．　閉会挨拶（大石副学長）

以　上

第7回

長岡技術科学大学
原子力安全フォーラム

原子力規制人材育成事業
第3回地域連携新潟モデル規制セミナー
「地域と連携した規制人材育成の展望について」

2019年

2月28日 木 13:30–16:40

まちなかキャンパス長岡　301会議室

長岡市大手通2丁目６フェニックス大手イースト　**参加無料**

第7回原子力安全フォーラム

13:30　**開会挨拶**
13:35　**「新しい原子力安全規制の創成を経験して」**
田中俊一氏（前原子力規制委員会委員長）
14:35　**閉会挨拶**

第3回原子力規制人材育成事業地域連携セミナー

15:00　**開会挨拶**
15:10　**「新潟県における原子力安全の取り組みと研究教育機関への期待」**
伊藤幸司氏（新潟県防災局）
15:40　**「長岡技大での規制人材育成のための取り組み」**
16:00　**総合討論**
16:30　**閉会挨拶**

ポスター展示：技大の原子力教育の取り組み
（4F展示ギャラリー）

主催：長岡技術科学大学　原子力システム安全工学専攻
申し込み・お問合せ：准教授　村上健太　E-mail：jkikuiri@vos.nagaokaut.ac.jp